

(様式第1号)

平成21年度第1回 芦屋市立図書館協議会 会議録

日時	平成21年7月14日(火) 13:03~14:40
場所	芦屋市立図書館本館2階集会室
出席者	委員 大竹 恵子 委員 河村 照子 委員 北里佐和子 委員 芝 勝徳 委員 中尾 滋男 委員 水谷 孝子 委員 渡辺 宏子 事務局 藤原教育長, 橋本社会教育部長, 大西館長, 高田館長補佐, 早戸主査, 丸尾主査
欠席者	委員 梓 加依
会議の公開	公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- 1 任命式
- 2 図書館運営について(報告)
平成21年度予算
平成20年度業務報告
- 3 その他

2 提出資料

資料1 平成21年度一般会計予算書

3 審議経過

(開会)

1 任命式

各委員自己紹介

委員長と委員長代理の互選

事務局から委員長と委員長代理を提案する件について

(全員異議なし)

委員長に芝勝徳委員を選出

(全員異議なし)

委員長代理に中尾滋男委員を選出

(全員異議なし)

この会議の会議録を作成する件と芦屋市のホームページに掲載する件について

(全員異議なし)

芝委員長)委員長に選出された。よろしく申し上げます。私は、元々、図書館で司書の仕事をしていました。兵庫県立図書館の図書館協議会と神戸市立図書館協議会の委員にも当たった。現在、東灘図書館建設に当たり、地域の方々との意見の取りまとめも行っているところである。本職としては日本図書館協会の件名標目委員も長年している。今ではコンテンツの配信などの仕事も行っており、図書館以外の仕事メインになってきている。また、普段

は図書館の司書を育てる仕事を大学で行っている。
芝委員長) この会議を公開することでよろしいでしょうか。

(全員異議なし)

芝委員長) では、そのようにいたします。

2 図書館運営について (報告)

芝委員長) 図書館運営について図書館から報告願います。

事務局大西) 図書館の平成 21 年度予算と補正予算を説明。6 月市議会では新聞紙を電子化する補正予算も可決された。1400 万円です。また、書架耐震化工事、約 1265 万円も行う。これは、書架の転倒防止工事を国の補助事業で行うものである。図書整備で財団法人兵庫県市町村振興協会から交付金、約 188 万円の寄付があり、参考調査用資料を中心に収集していきたい。

芝委員長) 特に質問や意見交換は如何でしょうか。

芝委員) 新聞の電子化ではどのような公開を考えているのか。

事務局大西) 公開方法は検討段階である。新聞の見出し部分を入力し検索対象にする。同時に OCR 読み込みも実施するが、公開に際しては著作権上の問題もある。今後、さらなる検討が必要と考える。

芝委員) 現在、紙で提供していることと同等の活用はどうか。

事務局大西) 考えている。

芝委員) 書架の転倒防止は可能か。

事務局大西) 阪神淡路大震災の際には、1カ所の転倒があった。転倒防止策として、書架を床とボルトで止める。また、書架の上部に柱を建てたり、複数の書架と壁面に渡し棒を設置するなどの固定方法を考えている。

芝委員) 複数の図書館を見て回った私の経験では、倒れるというより、上の物が落下することによる危険が大きい。色々な面での安全を図ってほしい。

芝委員長) 平成 20 年度の業務報告をお願いします。

事務局大西) 詳しくは年報を作成し、後日、お配りしたいと思います。施設の概要、打出分室、大原分室の施設概要、蔵書冊数などを説明。AV 資料は現在、購入していない。利用状況、利用者数、利用冊数は微増の状況である。有効登録者数は 3 年間で設定している。利用は本館が圧倒的に多い。また、規模を考えると大原分室も利用が多い。阪神 7 市 1 町に在住の人も貸し出しすることにしている。阪神地区公共図書館協議会で協定書を作り、貸出券は別だが貸出できるようになった経過がある。図書の予約状況は、年間約 73000 件で飛躍的に増加している。これは、インターネット予約実施による増加と考えられる。貸出中の資料に利用者が直接、インターネットから予約できる仕組みです。また、今年 6 月から在架の資料もインターネットで予約できるようにした。相互協力も増えてきている。主催行事などは例年どおりです。

芝委員長) この件で質疑、意見交換をしたいと思います。

芝委員) 人口の動きなどはどうか。新しい市民が増えてきているのか。

事務局大西) 人口は増えてきている。転入転出は 3 割くらいある。高齢化もあるが、マンション建設もあり、人口増加がある。

事務局橋本) 市の最上位の計画の総合計画を作成しているが、市の人口は、9 万 6

000人から7000人くらいになると予測している。しばらくは、9万5000人程度か。年齢構成は高齢者が多い。

水谷委員)登録対象は何歳からか。

事務局大西)ゼロ歳からです。

水谷委員)視覚障がい者の利用はどうか。

事務局大西)ボランティア団体が直接サービスしているものは図書館の事業の数値としては含めないの減少している。また、資料数も増加しない。

水谷委員)子どもの視覚障がい者は。

事務局大西)少し難しいのでは。

渡辺委員)ニーズが芦屋ではないのではないかと。こちらはニーズはつかんでいない。

水谷委員)視覚障がい者のためばかりではなく、他の子どもたちにとっても必要だと思う。

芝委員)学校図書館との連携は。

事務局大西)あまり連携できてないが、個々の担当での資料提供や情報交換を行っている。今後の課題として認識している。

芝委員)学校の現場との連携は利用増につながり、重要だ。

事務局大西)市内の小学3年生が来館する図書館見学を実施している。幼稚園も保育の一環としてしばしば来館している。北部の幼稚園などが来館しやすい状況にしたい。

事務局藤原)芦屋の子どもは本を読まない傾向は確かにある。私学受験の影響があると考える。このため、図書リスト(『ブックワーム芦屋っ子本が大好き読みたいな』)を作成した。今後、どのように読ませるのかということを取り組んでいきたい。学校図書館とのIT化もしていきたい。今後も芦屋の子どもたちに目先の点数でなく、本を読むような取り組みをしていきたい。

芝委員)このリストの作成を評価する。

事務局藤原)私学の子どもにも無料でリストを配布する。5年くらいで作り直したい。これからの夏休みに読むように、また、発表会やフォーラムも実施できればと考えている。

河村委員)大原分室の開室時間は。

大西館長)水曜日から日曜日まで、10時から18時までです。

芝委員)インターネット予約を実施しているが、図書館への来館が予約の本を受取りだけになるのではないかと。図書館の施設としてのあり方はどうか。また、職員の負担が増えているのでは。

事務局大西)職員の負担は確かに増えている。職員が本を取りに行く必要があり、また、利用者への連絡の必要もあり、負担増になっている。

芝委員)限られた資源である。予約により資料の回転が悪くなることも危惧する。今後、資源の配分の最適化を考えなくてはならない時期も来ると思う。

水谷委員)新聞のデータベース化とブックリストをホームページで載せてはどうか。

事務局大西)ブックリストは不可能ではない。

芝委員)インターネット上には本を読まれた方の書評が載せられている。人と人の交流もできる。

北里委員)このブックリストは教育の部分が多いのではないかと。もっと喜びとか楽

しみなどがあっても良かったのではないか。もっと生きていく上での喜びが大人になってからも感じられるような選択があればと思う。5年後の見直しの際、考慮してほしい。

北里委員) 行事の「小学生の本の部屋」がインフルエンザの閉館で中止になった。秋にでもできればと思う。

事務局丸尾) 他の委員に補足説明しますと、これは、子どもの読書週間に合わせた行事です。

事務局大西) 検討したい。

芝委員) 40代から60代までの利用がなだらかに落ちているが。

事務局大西) 特に調査はしていないが、土日に家族で来館され、借りていると感じている。

芝委員) 今後、図書館の活動をどうするかということも含めてご意見をどうぞ。

水谷委員) ボランティアの方が入っての行事は。

事務局大西) ほとんどの行事にボランティアが入っている。

水谷委員) 子どもの行事は、もっとあってもよいのではないか。

事務局大西) 統計に表れていないが、ボランティア団体の図書館友の会が実施しているものもある。

芝委員長) その他、なにかありますか。

事務局大西) 次回の図書館協議会の日程は、年明けくらい2月くらいでしょうか。

芝委員長) 他になにか。

(なし)

芝委員長) これで終了します。

(閉会)